



平成27年度 かながわの遺跡展 「縄文の海 縄文の森」 関連行事

平成28年1月17日(日)

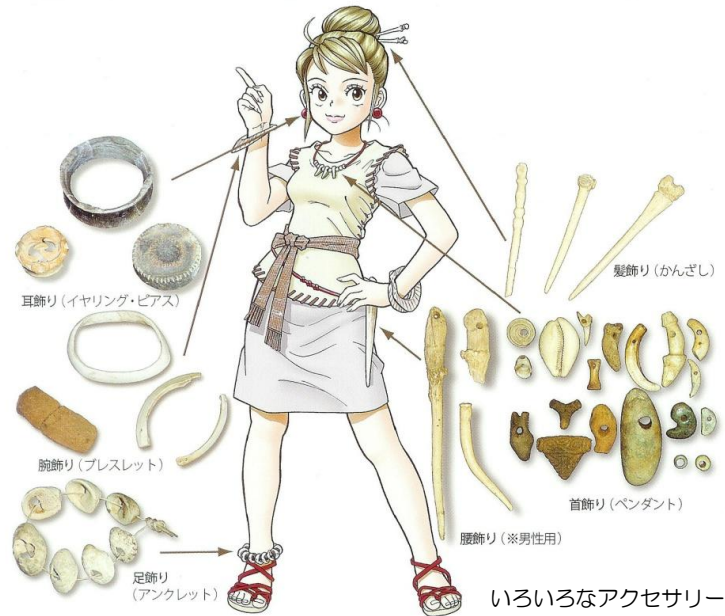
講師 鶴岡英一

市原市埋蔵文化財調査センター

貝を使って縄文時代のアクセサリーを作る

縄文時代のアクセサリー

縄文時代には、ヘアピン・ピアス・ペンダント・ブレスレットなど、さまざまなアクセサリーがつくられました。縄文時代のアクセサリーは、石や粘土、動物の骨や牙、貝殻など、自然から得られる素材を加工して作られているのが大きな特徴です。なかでも貝殻は、最も多く使われました。



いろいろなアクセサリー

貝アクセサリーの材料

縄文時代の人たちが食べて捨てた貝と、アクセサリーにした貝を見分けるには、貝をけずったり、みがいたりしていないか、あるいはひもなどを通すための穴がけられているかなど、よく観察する必要があります。こうして見つかったアクセサリーが、どんな種類の貝で作られているのかを調べたところ、波のおだやかな東京湾(内湾)ではとることができない、外海にすんでいる貝であることがわかりました。あたたかい南房総(千葉県)や三浦半島(神奈川県)の海岸に打ち上がっている貝が使われていたのです。そして貝アクセサリーは、大切な宝物として、遠く東北地方や北海道まで運ばれました。



海岸に打ち上げられた貝殻

貝輪ってなあに

貝輪とは、その名のとおり貝の輪っかです。二枚貝の貝殻に丸く穴をあけて作ったブレスレットです。お墓に埋められていた人骨の腕にはめられたまま見つかったことから、これがブレスレットであることがわかりました。また、貝輪をはめている人骨はすべて女の人で、女性専用のアクセサリーであったと考えられます。

ところで、貝でブレスレットを作るために必要な条件としては、どんなことが考えられるでしょうか。例えば、腕にはめるには、手よりも大きな貝殻でなければなりません。また、すぐに割れてしまうような、弱い貝殻もだめです。



大きくて、丈夫で、作りやすくて、しかも近くの海岸でひろうことができる貝。この条件をすべてクリアするのが、今日の「貝輪づくり」で使う「ベンケイガイ」で、千葉県内では、南房総に位置する鴨川市の海岸でたくさん打ち上げられます。



海岸に打ち上げられたベンケイガイ

縄文時代の人たちも、この貝が打ち上がる海岸を見つけ、貝輪の材料に適してることに気がついたようです。いまから3千5百年～4千年

くらい前の縄文時代後期には、ベンケイガイを使った貝輪が全国的に大流行しました。

貝輪のつくりかた

では、さっそく貝輪を作ってみましょう。使う道具は、「かたい石（ハンマー）・やわらかい石（砥石）・鹿の角（ハンマー）」の3つだけです。これらの道具は、実際に縄文時代の遺跡から見つかるものです。



貝輪づくりの道具

【作りかた】

① 貝殻をひっくりかえして手のひらでにぎり

ます。次に、かたい石でたたいて、貝殻の内側から穴をあけます。この時、貝殻のてっぺんに近いところをたたくのが、大切なポイントです。

② 貝殻をふせて（表が上）砂の上におき、鹿の角を使って割れ口をたたいて、穴をひろげていきます。

③ 手が入る大きさまで穴が広がったら、やわらかい石（砥石）を使って、ぎざぎざになっている割れ口をみがいて仕上げます。



ベンケイガイはとても丈夫な貝ですが、唯一弱点があります。それは、貝が合わさる「ちょうつがい」付近です。ここは殻がうすくて割れやすいので要注意です。また、鹿の角で指をたたいたり、割れた貝殻で手を切らないように気をつけましょう。